

## 基本的な文法用語について

ここで文法用語を少しだけ見てみましょう。文法に限らず専門用語に初めて触れるときは、??の連続です。日常生活で使いませんから、これが、専門用語が嫌われる最大の理由ではないでしょうか。でも、逆にいいこともあります。日々の生活では、1つの語にいろいろな意味やニュアンスを込めて使っています。状況次第で正反対に解釈される可能性だってあります。有名な例が「けっこうです」というフレーズですね。褒めるときにも断るときにも使ってしまいます。このように微妙な使い方をするこぼに満ち溢れている世界で、誤解をしたり深読みして一人で勝手に疲れたり、なんてことをしながら毎日を過ごしています。それに対して専門用語は1つの語の意味が明確に規定されています。ここをきちんと押えておけば、誤解の起こりようがありません。これが専門用語の利点です。というわけで、ちょっとだけ辛抱してください。

チェコ語の文法は、語の形をととても大事にします。Janaに対して呼びかけるときにはJanoとしなくてはなりません。語の形とはこのことです。最後のaを取り去って、かわりにoをつける。このつけかえ可能なaやoを語尾といいます。そして、語尾の前の形を変えない部分を語幹といいます。Janaの中のJanが語幹というわけです。

チェコ語では次の語が形を変えます。

名詞：人や物の名を指す語。「ヤナ」、「塩」など。「美」のような抽象的な意味の語も名詞です。

形容詞：名詞につけて性質や関係を表す語。「大きい」、「学校の」など。

代名詞：前にでてきた名詞の代わりになる。「それ」、「その」のような語。

数詞：文字通り数を表す語です。

これらの種類の語の前に前置詞がくることがあります。「～について」、「～のために」など語によって意味はさまざまです。前置詞そのものは語尾によって形を変えることはありませんが、後ろに続く語がどの語尾をとるのか決定します。

動詞：動作や状態を表す語。「走る」、「ある」、「いる」など。

動詞も語尾をつけかえます。でも、上に挙げた名詞や形容詞などとは違う規準によって形を変えます。

人称と数も頻繁に使われる用語です。チェコ語の人称は3つに分かれています。話し手あるいは書き手を指す1人称、聞き手あるいは読み手を指す2人称、それ以外の3人称です。数は、1人あるいは1つのものを指す単数と2人以上あるいは2つ以上のものを指す複数の2種類に分かれます。

語尾による変化をしない種類の語には、上で挙げた前置詞以外に副詞と接続詞があります。副詞は形容詞や動詞を説明する語です。「とても大きい」の「とても」や、以前とりあげた「ここはたくさん雨が降る」の「ここ」、「たくさん」が副詞です。接続詞は「つなぎ」の役割をする語で、「そして」、「しかし」などです。

今挙げたものの多くは英語を学習するときにも目にしたかと思います。ただ、英語には冠詞というものがありました。a(an), theのような種類の語ですね。これはチェコ語にはありません。

## チェコ語の3大特徴

チェコ語の文法が語の形をととても大事にするということは、前のコラムで述べました。語の形とは、時と場合で語尾をいろいろとつけかえることによって変化するのでした。この、「時と場合」を整理してみます。

## 1. 相手によって形が変わる。

「古い店」、「古い郵便局」、「古い町」。日本語では相手が「店」でも「郵便局」でも「町」でも、形容詞「古い」の形は変わりません。それに対して、チェコ語は名詞「店」、「郵便局」、「町」にあたる語がそれぞれ別のグループに属しているため、「古い」の語尾が変わります。同じことが、「私の」や「その」のような代名詞にもいえます。名詞にはどのようなグループがあるのか、どのグループの名詞に対して形容詞や代名詞がどのような形になるのか、区別のしくみをつかんでおかななくてはなりません。

## 2. 誰がするかによって形が変わる。

これは動詞の語尾をつけかえる規準です。その動作をするのは誰なのかは、主に人称と数によって分類します。同じ「勉強する」でも「私」(1人称単数)が勉強しているのか、「君たち」(2人称複数)が勉強しているのかで、語尾が違うということです。また、その動作をいつするのも動詞の形を考えるとときには重要です。たとえば、「今勉強している」のか、「きのう勉強していた」のか「これから勉強する」のかによって、「勉強する」の形を変えていきます。つまり、人と時間のしくみを理解することによって、動詞の形がわかります。

## 3. 「てにをは」によって形が変わる。

名詞の語尾をつけかえるとても重要な規準です。文の中でその名詞がどんな働きをしているのか、つまり「～は」といいたいのか、「～を」といいたいのかなどによって名詞の形が変わります。また、同じ「～を」でも属するグループによって語尾が違うので、かなり複雑です。実は「かなり」なんてものではなく、しっかりとマスターしようとする、げんなりするほどです。でも、この「てにをは」のしくみは是非おさえておかななくてはなりません。この本はチェコ語の完全マスターを目指すものではありませんから、ごく少数のグループに絞って大筋を紹介します。

このように、チェコ語は語尾のつけかえが大変重要なのです。つまり、多くの語が語尾によって「人」、「時間」、「てにをは」など何らかのシグナルを文の中で常に発しています。このシグナルを正確にキャッチできなければ、チェコ語のしくみがつかめたとはいえません。そして、語尾のつけかえは日本語にはありませんので、慣れるまでに少し時間がかかります。

これから、上で挙げた3つの点について具体例を出しながらチェコ語のしくみを見ていきます。